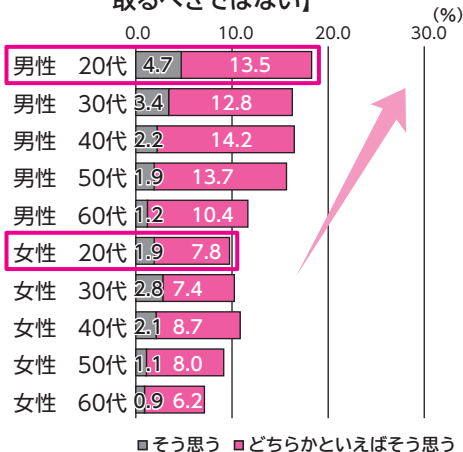
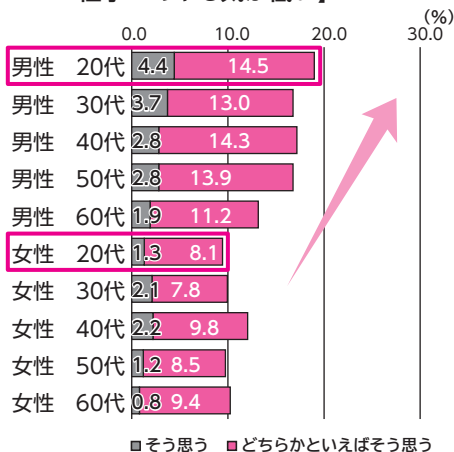


【男性は出産休暇/育児休暇を
取るべきではない】【仕事より育児を優先する男性は
仕事へのやる気が低い】

想いをかたちに

無意識の思い込み

左のグラフは、内閣府男女共同参画局が発表した「令和4年度 性別における無意識の思い込み」に関する調査結果の一部分です。

この結果を見ると、20代の男女間でも大きな差があることが分かります。

昨今、社会では、男性の育児休暇取得について積極的に進める動きも見られます。しかし、思うように成果が上がらないのは、男性が知らず知らずのうちにこのように考えているのも一つの原因であるのかもしれない。

アンコンシャス・バイアス

性別だけのことに関わらず、私たちは誰もが、「先入観」や「思い込み」と言われるものをもっています。それは当たり前のことで、過去の経験や体験、知識、周囲の意見や考え、日々接するたくさんの情報などから、これは無意識のうちに形成されるものだからです。この「無意識」と「思い込み」という言葉をつなげて、「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見・思い込み）」と呼ばれます。

アンコンシャス・バイアスは、マイクロアグレッション（小さな攻撃性）につな

がる原因でもあるとされています。意識しづらいものです。しかし、アンコンシャス・バイアスをもつこと自体が、問題とされているわけではありません。（大量の情報を処理するような思考においては不可欠とも言われているほどです。）

問題となるのは、やはり私たちが、その傾向を正しく理解せずにいることです。アンコンシャス・バイアスは、その特性上、日常生活の些細な言動に現われます。何気ない言動であるからこそ、見過ごされ、放置されてしまいます。しかし、そのような状態を放置すると、それは、「思い込み」→「決め付け」→「押しつけ」となり、多くの人を傷つけることや自分の可能性を狭めてしまうことにつながるなど、多くの弊害を生み出します。

他の誰でもなく、自分にも起こることだからこそ、アンコンシャス・バイアスをもっていることを自覚し、常にアンテナを高くする。そして、自らを客観的に見つめるように努める。これらが、私たちにできることなのです。

新年度のスタートに

人権尊重への想いを込めて

私たちの心がけ次第で、誰もが尊重される温かい社会を創ることが出来る。そのような道筋は見えるような気がします。しかし、言葉では簡単に聞こえますが、無意識であるからこそ、これは非常に難しいことです。どうするとよいか考え込んでいると、「新年度」にヒントがありました。

「想い」は、「言葉」にして、「かたち」にして残すこと。できればさらにそれを、「発信」することです。小中学校では、自己実現が出口となるため、新年度には、なりたい自分（目標）を決め、何を頑張るかを明確にし、そして、折に触れて達成度を振り返るという活動を行っています。そうして、常に年度当初の目標を忘れないのです。

「想いをかたちに」。この言葉は、思いやりを行動に結び付けるという意味でよく使われます。しかし時には、皆さまご自身の想いや願いを、言葉というかたちにしてみるのもよいのではないのでしょうか。